

平成 21 年度 事 業 計 画 書
平成 21 年度 収 支 予 算 書

自 平成 21 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 3 月 31 日

(財) 早期胃癌検診協会

目 次

平成 21 年度 事業計画	1
A. 研究事業	
I. 研究テーマ	2
II. 各種研究会	6
1. 早期胃癌研究会	6
2. 大腸疾患研究会	8
3. 茅場町勉強会	9
B. 研修事業	
I. 外国人医師に対する研修	10
II. 国内医師に対する研修	10
C. 中央診療所運営事業	11
D. 啓発事業	12
E. 法人運営計画	13
平成 21 年度 収支予算	14

平成 21 年度 事業計画

当財団は、消化管癌の検診施設としての歴史、伝統並びに業績を守りつつ、さらなる発展に努め、社会的責任と公共的使命を果たしていかなければならない。

当財団の使命は、早期胃癌を主とする消化器癌の学術的及び診断技術的研究を行い、あわせて医学界及び一般社会に対して研修、啓発活動を展開することにより、がん対策に寄与し、人類社会の発展に貢献することである。そのために、(1)消化管癌診断技術の研究、(2)胃検診方式の確立に関する研究、(3)早期胃癌をはじめとする消化器癌の診断に関する研修及び啓発を事業の柱としている。

平成 21 年度は、研究事業、研修事業、中央診療所運営事業及び啓発事業の 4 事業を執行するが、これまで以上に研究事業及び啓発事業に力点をおき、社会的責任と公共的使命を果たせるよう体制を整えていく。

A. 研究事業

研究事業には、前年度から継続する研究テーマと今年度から新たに選定した研究テーマがある。そして、成果をあげることができた研究から順に論文あるいは学会発表等を行い、当財団の存在価値を高めていく。

なお、研究事業の選定・評価については、これまでは財団内で行っていたが、研究の必要性や研究結果の評価に客観性を保証するため、今年度から外部の有識者を含めた「研究事業選定・評価委員会（仮称）」を設置する。

研究会の開催等については、これまで継続して行ってきたものを基本として、さらにそれらを充実する。

I. 研究テーマ

1. 背景粘膜からみた胃癌のハイリスクグループの検討（新規）

（中島 寛隆、長浜 隆司、山本 栄篤）

胃癌検診の分野では、ペプシノゲン法や H.pylori 抗体といった血清学的手法を用いて、検診受診者の胃粘膜委縮を評価し、胃癌のハイリスクグループを層別化することが注目されている。しかし、厚生労働省の「有効性評価に基づく胃癌検診ガイドライン（平成 17 年）」では、X 線法による胃癌検診のみが癌死亡率減少効果を示す唯一の胃癌検診法であるとされている。

このような背景のもと、胃粘膜委縮が胃癌の発生に影響を与える因子であるかを検証する。胃癌の病因論（原因）が完全に解明されたといえない現状であるが、未来の胃癌検診の方法論を模索する。

今年度は、当財団で診断された胃癌症例を用いて癌の X 線像と病理所見に基づいた粘膜委縮の程度を評価し、相互の関係を明らかにする。

2. 胃内視鏡検診への経鼻内視鏡検査導入の可能性に関する研究（新規）

（長浜 隆司、中島 寛隆、山本 栄篤）

半世紀にわたり我が国の胃癌検診は X 線検査を用いて行われてきたが、近年、胃癌の治療においては患者の QOL を重視する立場から内視鏡検査のニーズが高まり、検診においても内視鏡治療適応病変の発見が求められている。胃 X 線検査は胃癌検診の中で唯一死亡率減少効果の有効性が証明された検診方法であるが、その発見率は諸家の報告で 0.091~0.102%と報告されており、内視鏡検査での胃癌発見率 0.158~0.485%に比してその精度は劣っている。一方、内視鏡検査は発見率における優位性はあるが、検診の場においてはその時間的、経済的な効率性を重視しなければならないため、内視鏡検査への全面的な移行には問題が山積している。しかしながら、人間ドック等の任意型検診においては受診者の内視鏡検査、さらには従来の内視鏡検査に比べて挿入時の嘔吐反射等が少ない経鼻内視鏡のニーズが高まっており、急速な機器の性能向上を考慮す

ると、今後ますます内視鏡検査の比重は高まるものと予想される。

当財団においても経鼻内視鏡を導入し、将来の内視鏡検査に向けての前処置方法、検査方法及び精度管理、並びに利点や欠点につき検討を行い、内視鏡検査のよりよい方法論としての経鼻内視鏡検査法を導入し、確立することは有意義なことと考えられる。

今年度の研究は、経鼻内視鏡検査を 300～400 人に対して実施し、効率的な前処置方法、検査方法等について検討し、経鼻内視鏡検査を用いた胃検診用マニュアル作成の土台づくりを目指す。

3. 胃癌組織発生・発育様式の観点から見た新しい臨床画像診断指標の研究 (継続)

(吉田 諭史、馬場 保昌)

胃癌診断における臨床画像検査、特に胃 X 線検査における胃癌の所見のあらわれ方について、旧知の所見をもとにこれまで着眼されていなかった所見、ないしは着眼されていても系統的にまとめられていなかった所見を分析し、その価値を明らかにすることが本研究の目的である。

陥凹性病変では、現在でも社会的にも臨床的にも問題があるとされる Linitis plastica 型癌を対象とし、初期病変の X 線的所見の特徴を分析する。分化型癌がほとんどを占める隆起性病変では、悪性所見の診断指標である大きさ・輪郭・表面顆粒に加えて微細な表面構造を分析し、癌粘膜の組織構築との対比を行う。

なお、今年度は、病理組織切片が確認できる隆起型胃癌の X 線所見を対象とし、表面形態を分析することで癌粘膜の腺管構築と対比し、表面形態と腺管構築（大型・中型・小型）との関連についてまとめることを到達目標とする。

4. 胃癌の X 線的悪性所見分類（カテゴリー分類）－第Ⅱ報－（継続）

(吉田 諭史、馬場 保昌、木村 俊雄)

検診胃 X 線検査における胃癌の X 線所見について、諸条件で撮影された胃癌の X 線的悪性所見を 5 段階に類型化することが本研究の目的である。

第 1 報では、X 線画像の質と悪性所見について分析を行ったが、X 線検査の方法がまちまちであったことから、系統的で客観的な所見の整理が困難であった。平成 19 年度より、胃がん検診における X 線撮影法の基準化が進んだことを踏まえて、再度、基準撮影法における悪性所見分類を行う。

なお、今年度は、基準撮影法で検査が行われた胃癌発見例を対象に、悪性所見を類型化し、客観的な分類法を作成することと到達目標とする。

5. 基準撮影法における前壁二重造影撮影時の圧迫フツンの基準化（新規）

（木村 俊雄、工藤 泰、川原 雅行）

現在、頭低位腹臥位前壁二重造影の撮影時に際し、描出領域の改善及び受診者の負担軽減を図るために、圧迫用フツンを使用した撮影が全国的に普及しつつある。しかし、圧迫用フツンの形状、厚み及び使用方法についての基準がなく、各施設独自の方法で実施しているのが現状である。

そこで、胃 X 線撮影の精度向上を図るため、圧迫用フツンの形状、大きさ、厚みなどの基準化を試みる。

6. DR-X 線装置を使用した胃 X 線検査の基準化（新規）

（工藤 泰、川原 雅行、木村 俊雄）

近年、検診で使用する X 線装置は、従来のフィルムスクリーン系からデジタル系へと移行している。デジタル装置の画質あるいは検査精度に関する特性として、撮影画像の自動階調・自動濃度処理があげられるが、この特性は撮影サイズと撮影時のフレーミングにより大きく変化し、今後はこのことを踏まえた撮影が求められる。

現在、DR - X 線装置を使用した胃 X 線撮影は、各施設独自の方法で撮影されるなど、必ずしも DR - X 線装置の特性を生かした撮影が実施されていない。

DR - X 線装置を使用した胃 X 線検査の精度向上のため、装置の特性を生かした撮影法を研究する。今年度は、デジタル装置の特性（自動階調・自動濃度処理）を大きく変化させる撮影サイズについて検討する。

7. 放射線技師読影の精度と対策（新規）

（工藤 泰、川原 雅行、木村 俊雄）

胃 X 線検査において病変描出能を向上させるには、基準撮影法の遵守、透視観察及び追加撮影が有効である。さらに近年普及してきたデジタル装置では撮影画像が即座に表示され、透視画像に加え表示画像を観察し追加撮影することにより、さらなる病変描出能の向上が期待できる。これに対応するためには、透視画像及び撮影画像から異常所見を拾い上げ、適切な追加撮影が行えるよう、撮影技師の読影能力を向上させることが必要である。

撮影技師の読影能力の現状を把握し、撮影技師の読影能力基準（レベル）を設定するとともに、レベルに合わせた教育方法を検討する。

8. 早期胃癌の X 線診断画像所見の解析と研究（継続）

（木村 俊雄、工藤 泰、吉田 諭史、長浜 隆司、馬場 保昌）

胃癌の診断・治療の基本となる画像診断の基礎は、X 線画像の画質管理であり、この画質管理が適切に行われてこそ、正確な胃癌の X 線診断が実現される。

つまり、写真濃度、コントラスト、鮮鋭度及び粒状度が適切な条件下に置かれていることが必要である。

常に安定した画像を提供するために、写真濃度、コントラスト等の基準を定め、画質管理の指標を明らかにする。

9. 胃癌 X 線検診の精度管理及びその問題点（継続）

（加藤 良一、渡邊 敬子、木村 俊雄、吉田 諭史、馬場 保昌）

胃癌 X 線検診の精度管理手法としては、受診者数、要精密検査率、精密検査受診率及び発見率に関する実態調査とその経年比較があげられる。しかし、これからの検診施設には実態調査による数的指標のみではなく、発見以後の治療結果を含めた追跡調査も必要とされている。

これまでの研究において継続して統計をとってきたが、これをより簡便かつ正確に実施するためには受診者番号の統一化が不可欠であり、今年度は、受診者番号の統一に向けての様々な課題の抽出及び統一化へのプロセスについて検討する。

また、癌発見者については、診断結果と術後の病理組織診断結果を対比することにより、診断精度を向上させることが求められている。そのためには、がん発見後の検査及び治療に関する追跡調査が必要であるが、その方法はいまだ確立されていないので、これについても検討を開始する。

II. 各種研究会：主管及び共催・支援事業

1. 早期胃癌研究会（毎月開催）

東京都を中心に全国の大学、医療機関から提出される食道がん・胃がん・大腸がん並びに腫瘍性疾患の X 線・内視鏡画像（平均 5 症例）と病理所見について最先端の厳しい討論が行われる。この研究会での高度かつ専門的な症例検討は医学雑誌「胃と腸」に掲載され、早期消化管癌の診断法の進歩及び普及に貢献している。

出席者は毎回約 600 名、うち都内在住者は約 50%、主たる参加施設数は約 90 に及ぶ。当財団としては、中央診療所診療部長の長浜隆司が、運営幹事として研究会の運営企画にあたりるとともに、編集委員として研究会機関紙「胃と腸」の発行に積極的に関わっている。

さらに、研究会についても、当財団所属医師が毎回積極的に討論に加わり発言し、その診断法の進歩に貢献するとともに、年数回は症例を提出し討論においてリーダーシップを発揮している。

（平成 21 年 1 月 31 日現在）

（1）早期胃癌研究会運営幹事

【臨床】 11 名

浜田 勉	東部地域病院内科
飯石 浩康	大阪府立成人病センター消化器内科
川口 実	国際医療福祉大学附属熱海病院内科
清水 誠治	大阪鉄道病院消化器内科
杉野 吉則	慶應義塾大学放射線診断科
趙 栄済	大津市民病院消化器科
春間 賢	川崎医科大学内科学食道・胃腸科
細川 治	福井県立病院外科
八巻 悟郎	こころとからだの元氣プラザ内科
山野 泰穂	秋田赤十字病院消化器病センター
長浜 隆司	早期胃癌検診協会中央診療所

【病理】 2 名

鬼島 宏	弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座
九嶋 亮治	滋賀医科大学医学部病理部

（2）研究会における成果発表と編集委員〈雑誌「胃と腸」（発行元：医学書院）〉

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X 線診断、内視鏡診断、病理診断等）が執筆、掲載される。

(3) 平成 21 年度 4 月～9 月 日程予定表

日	時	会 場
4 月 15 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
5 月 20 日(水)	18:00～21:00	第 48 回「胃と腸」大会 (名古屋：名古屋東急ホテル 4 階 「ルネッサンス」)
6 月 17 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
7 月 24 日(金)	18:00～21:00	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3 階 「北辰」
8 月		休会
9 月 16 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
10 月 21 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
11 月 18 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
12 月 16 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
1 月 20 日(水)	18:00～21:00	東京商工会議所 地下 2 階 講堂
2 月 17 日(水)	18:00～21:00	笹川記念会館 2 階 国際会議場
3 月 17 日(水)	18:00～21:00	未定

※ 5 月の第 48 回「胃と腸」大会は、第 77 回日本消化器内視鏡学会総会との共催により
(学会前日に)開催する。

2. 大腸研究会（毎月第2月曜日開催）

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見についての最先端的な検討、討論を行う。当財団所属医師が、この研究会を通じて、若手研究者の育成に貢献している。

大腸の腫瘍性疾患のみならず、炎症性疾患など大腸疾患全体について専門的な検討を行うことを目的とし、以下の世話人により運営されている。

（平成21年1月31日現在）

【世話人】 11名

鶴田 修	久留米大学医学部消化器病センター内視鏡部門
味岡 洋一	新潟大学医学部分子・診断病理学
池上 雅博	東京慈恵会医科大学病院病理学
大倉 康男	杏林大学医学部病理学
斎藤 彰一	東京慈恵会医科大学内視鏡科
高木 篤	みなと医療生活協同組合協立総合病院内科
津田 純郎	福岡大学筑紫病院消化器科
富樫 一智	自治医科大学内視鏡部
西俣 嘉人	南風病院消化器科
渡邊 聡明	帝京大学外科
長浜 隆司	早期胃癌検診協会中央診療所

【会計幹事】 2名

河野 弘志	久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門
中島 寛隆	早期胃癌検診協会中央診療所

平成21年度4月～9月 日程予定表

日	時	会 場
4月13日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所 地下2階 講堂
5月11日(月)	18:00～21:00	
6月8日(月)	18:00～21:00	
7月13日(月)	18:00～21:00	
8月		休会
9月14日(月)	18:00～21:00	東京商工会議所 地下2階 講堂

※ なお、10月以降の日程については、平成21年度5月頃に公開する予定である。

3. 茅場町勉強会（毎月開催）

この勉強会は、X線検診で発見された胃癌のX線所見、内視鏡所見とその病理組織構築を対比しながら精緻な質診断、深達度診断、拡がり診断を行い、理論的なX線診断学の習得を目的としたものである。東京都内でX線検査に従事する医師を中心として毎回20名ほどの参加者があり、活発な討論が行われている。

【世話人】 6名

八巻 悟郎	こころとからだの元氣プラザ内科
杉野 吉則	慶応義塾大学放射線診断科
入口 陽介	東京都多摩がん検診センター消化器内科
小田 丈二	東京都多摩がん検診センター消化器内科
水谷 勝	東京都多摩がん検診センター消化器内科
馬場 保昌	早期胃癌検診協会中央診療所

平成21年度4月～9月 日程予定表

日	時	会場
4月17日(金)	19:00～21:00	早期胃癌検診協会中央診療所
5月29日(金)	19:00～21:00	
6月18日(木)	19:00～21:00	東京都多摩がん検診センター
7月23日(木)	19:00～21:00	早期胃癌検診協会中央診療所
8月21日(金)	19:00～21:00	
9月24日(木)	19:00～21:00	東京都多摩がん検診センター

※ なお、10月以降の日程については、平成21年度5月頃に公開する予定である。

B. 研修事業

都内及び国内各地の専門医、医療技術者、さらには海外の専門医に対し、早期消化器癌の診断技術取得を目的とした研修会、セミナーなどを実施する。

1. 外国人医師に対する研修

上級早期胃癌診断研修は、日本の消化管癌の早期診断、低侵襲治療及びその基礎である病理学が世界最先端に位置していることを背景として、国際協力機構（JICA）の委嘱を受け、国内関係者の全面的な協力のもと、30年以上に渡って継続している人材育成事業である。

平成17年度からは、中南米諸国を対象とした新たな研修コース（Advanced Training Course for Detection of Early Gastrointestinal Cancer and Related Digestive Tumors）を実施している。この研修は、消化器領域の医療に10年以上の経験を有し、帰国後は自国における消化器癌の教育・指導者になることが期待されている人材を対象としており、JICAの人材育成事業の中でも高い評価を得ている事業の一つである。

また、今年度からは、中南米諸国に加えてアジア諸国にも拡大し、平成22年2月頃に開催する予定である。

2. 国内医師に対する研修

当財団は、消化管癌の診断に関してX線・内視鏡診断を含めた総合的な研修が行える数少ない施設であり、当財団での研修を希望する医師が増えている。これまでも都立駒込病院、都立墨東病院等から定期的に数名の研修医を各々3～6ヶ月間受け入れてきた。

今年度は、短期研修に加えて、1年間の研修カリキュラムを組み、前期臨床研修終了者1名を研修医として受け入れる。

また、昨年、急速に進歩している消化管疾患の診断及び治療に関する情報を診療の場に提供することを目的として、地元の医師を対象に講習会を開催したが、今年度から、地域の医師が最新の知識を習得する場として、定例的に年2回「平成消化器懇話会」を開催することとする。

C. 中央診療所運営事業

中央診療所は、地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当診療所の受診を希望する来院者を対象に外来診療を行う。

また、人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の検診機能を有しており、今年度は約 13,000 人の検診に対応する。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第2及び第4週の午前中のみ）

診療時間：午前9時～午後4時（午前11時30分～午後1時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、放射線科

来院見込数（年間延べ人数）：12,500人

研究テーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め成果をあげつつあるが、さらにデータ整備システムを補強する。

また、急増している大腸癌の早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努める。

D. 啓発事業

研究成果を社会還元するため、消化器癌に対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資すべく癌対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行う。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断X線（胃透視）、上部下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努める。

- I. 教育講演・セミナーの開催（都内各区医師会、企業、地域住民、その他）
- II. 保健指導者セミナーの開催（年1回）
- III. 機関紙「健康開発りぽーと」の発行
- IV. インターネットによる情報提供サービス
- V. 公開講座の開催（今年度からの新規事業）

地域住民を対象にし、「公開講座」を年2回開催し、消化器癌に対する正しい認識及び当財団の機能等についての理解を深める。

E. 法人運営計画

I. 寄附行為に基づく評議員会・理事会の開催予定

決算評議員会・理事会 平成21年5月下旬（予定）

予算評議員会・理事会 平成22年3月下旬（予定）

II. 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大、癌検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究及び検診事業の成果の向上を図るため、引き続き研究用機材を整備する。

III. 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努める。

IV. 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

法令に沿って、規程及び規約等を整備する。また、当財団職員に対して、法令、規程及び規約等を周知し、その徹底を図る。

V. 公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革に的確に対応するため、事業の総点検を行うとともに、公益財団法人の認定に向けての準備計画を立て、それを着実に実行する。

平成 21 年度 収支予算の概要

平成 21 年度予算は、事業活動では収入が 862,160 千円、支出が 808,370 千円であり、投資活動では、収入が 14,818 千円、支出が 49,816 千円である。これに予備費支出 5,000 千円を加えると、当期収支差額は 13,792 千円となる。

① 事業活動収支の部

事業活動収入のうち診断診療収入については、平成 20 年度の研究機器購入と検診フロアの改装により検診者受入数の拡大が可能となり、対前年度比 26,010 千円増の 783,010 千円とする。補助金等収入は、前年度に自転車振興会からの補助金収入があったが、今年度は見込めないので計上しない。

これらのことから、事業活動収入は 862,160 千円となる。

一方、事業活動支出については、給料手当及び福利厚生費支出のうち、役員及び事務局員 6 名分を事業費から管理費へ按分する。委託費、消耗品費、水道光熱費等は、診療診断収入の伸び率を加味して増額とする。

これらのことから、事業活動支出は 808,370 千円となり、事業活動収支差額は 53,790 千円となる。

なお、今年度は、これまで以上に研究事業、研修事業及び啓発事業に積極的に取り組むこととし、3つの新規事業を予定している。第1は、研究事業の客観性、妥当性を高めるため、外部の有識者を含む「研究事業選定・評価委員会（仮称）」を設置し、研究テーマの選定及び研究成果の評価を行う。第2は、地元の医師を対象に「平成消化器懇話会」を開催し、消化管癌に関する最新の知識を提供するための新たな研修事業を展開する。第3は、地域住民を対象に「公開講座」を開催し、消化管癌や健康管理に関する知識の普及啓発に努める。

② 投資活動収支の部

投資活動収入としては、研究事業に必要な医療機器を購入するため、研究施設拡充資金預金 14,818 千円を取り崩す。

投資活動支出として、研究施設拡充資金積立等に充てるための特定目的資産取得支出が 34,998 千円、研究事業推進のための医療機器である経鼻内視鏡システム一式、デジタル顕微鏡等を購入するための固定資産取得支出が 14,818 千円とする。

これらのことから、投資活動支出は 49,816 千円となり、投資収支差額は△34,998 千円となる。

厳しい社会経済情勢の中での財団運営を強いられることになるが、財団を取り巻く環境の変化をしっかりと見極め、当初予定どおりに事業計画が執行できるよう努めるとともに、さまざまな環境変化に迅速かつ的確に対応できる組織の構築を目指す。

以上

収 支 予 算 書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	1,625	900	725	定期預金利息、債権利息
基本財産配当金収入	125	125	0	債券配当金
② 会 費 収 入				
賛助会員会費収入	10,500	11,000	△ 500	
③ 事 業 収 入				
診 断 診 療 収 入	783,010	757,000	26,010	
海外医師研修受託収入	7,000	5,000	2,000	JICAからの研修受託
④ 寄 附 金 等 収 入				
一 般 寄 附 金 収 入	53,400	50,000	3,400	
研修事業寄附金収入	5,000	3,000	2,000	JICA事業に対する寄附
⑤ 補 助 金 等 収 入				
自転車振興会補助金収入	0	15,000	△ 15,000	
⑥ 雑 収 入				
受 取 利 息 収 入	500	50	450	定期預金利息他
雑 収 入	1,000	600	400	
事業活動収入計	862,160	842,675	19,485	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
研究事業費				
給料手当支出	268,640	309,000	△ 40,360	定例給及び賞与
福利厚生費支出	22,250	35,000	△ 12,750	社会保険料財団負担分他
材料費支出	73,830	76,000	△ 2,170	研究医療材料、薬品他
委託費支出	157,690	134,560	23,130	検査外注他
リース費支出	25,030	25,640	△ 610	研究機器関係
会議費支出	300	100	200	研究事業選定・評価委員会（仮称）
旅費交通費支出	11,210	11,000	210	職員通勤費、学会出張他
貸借費支出	80,200	84,170	△ 3,970	財団ビル他
図書印刷費支出	11,640	12,000	△ 360	データ用紙、研究図書他
消耗品費支出	15,380	3,870	11,510	
修繕費支出	24,860	14,510	10,350	研究機器保守、修理他
水道光熱費支出	4,040	3,870	170	
租税公課支出	12,750	8,000	4,750	消費税他
雑 支 出	14,210	9,000	5,210	損害保険料他
研修事業費				
国内医師研修事業費支出	500			平成消化器懇話会
海外医師研修事業費支出	7,500	6,500	1,000	JICA研修
啓発事業費				
啓発事業費支出	1,270	2,000	△ 730	保健指導者セミナー、公開講座

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減	備 考
② 管 理 費 支 出				
給 料 手 当 支 出	58,800	3,600	55,200	役員報酬、定例給及び賞与
福 利 厚 生 費 支 出	6,760	600	6,160	社会保険料財団負担分他
会 議 費 支 出	340	500	△ 160	評議員会、理事会
旅 費 交 通 費 支 出	360	600	△ 240	
通 信 運 搬 費 支 出	5,700	5,000	700	
賃 借 費 支 出	2,800	2,850	△ 50	
リ ー ス 費 支 出	20	870	△ 850	
委 託 費 支 出	390	450	△ 60	
函 書 印 刷 費 支 出	50	300	△ 250	
消 耗 品 費 支 出	100	140	△ 40	
修 繕 費 支 出	100	500	△ 400	
水 道 光 熱 費 支 出	140	140	0	
交 際 費 支 出	200	800	△ 600	
雑 支 出	1,310	2,000	△ 690	
事業活動支出計	808,370	753,570	54,800	
事業活動収支差額	53,790	89,105	△ 35,315	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定目的資産取崩収入				
研究施設拡充資金取崩収入	14,818	100,000	△ 85,182	
投資活動収入計	14,818	100,000	△ 85,182	
2. 投資活動支出				
① 特定目的資産取得支出				
退職給付引当預金支出	9,000	10,000	△ 1,000	
退職給付引当生保積立金支出	6,180	1,850	4,330	
研究施設拡充資金支出	19,818	75,000	△ 55,182	
② 固定資産取得支出				
造 作 設 備 支 出		42,000	△ 42,000	
研究機器整備支出	12,070	72,000	△ 59,930	経鼻内視鏡、デジタル顕微鏡
什器備品購入支出	2,748	1,000	1,748	待合用椅子、プロジェクター
投資活動支出計	49,816	201,850	△ 152,034	
投資活動収支差額	△ 34,998	△ 101,850	66,852	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	5,000	10,000	△ 5,000	
当期収支差額	13,792	△ 22,745	36,537	
前期繰越収支差額	50,517	73,262	△ 22,745	
次期繰越収支差額	64,309	50,517	13,792	

平成21年3月27日

財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-8790

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番12号

Tel. 03-3668-6801(代表)

Fax. 03-3667-1233

URL : <http://www.soiken.or.jp>

E-mail : mail@soiken.or.jp